

あしな

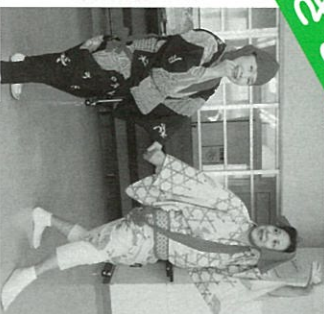
生涯学習情報紙

感動人生!

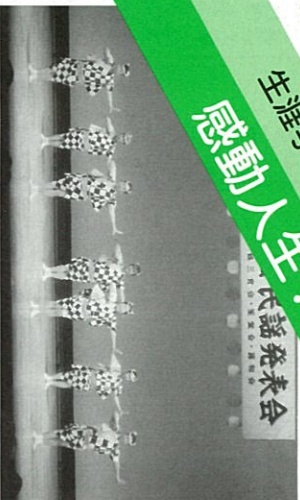
生きがい探しのパートナー
ここに生きる元気な人間



▲子どもかつぼれ「箱隠れ」(10年前)



▲衣装をきめて勢ぞろい



▲民謡発表会に出演



▲かつぼれ「よいとさっさ」



■人間かつぼれ愛好会 早乙女昌代さん(久保稲荷)

若い世代に伝えたい江戸の芸

「かつぼれ、かつぼれ、よいとさ、よいよい」
早乙女さんは公民館を訪ねて、「江戸芸かつぼれ」の由来と、この踊りが尾上菊五郎や市川四十郎も踊る日本の伝統芸であることを説明しました。この熱意が通じて、愛好会を発足させることができました。

さつそく知り合いに呼びかけて、幼稚園児と小学生の『子どもかつぼれ』と、大人の愛好会をスタートさせました。秋の公民館まつりで披露すると大好評で、会員も増えて行きました。

早乙女さんは自宅で、端唄・三味線・踊りの教室を開いています。かつぼれは、本家と言われる櫻川びん助家元に入門して、師範・櫻川梅三華を名乗ることを許されました。

かつぼれは、大阪の住吉大社の祭礼で五穀豊穡を祈願する住吉踊りが、江戸末期に浅草に伝わったものと言われています。愛好会のメンバーは7月下旬の住吉踊りに毎年参加しています。

「今の子どもたちはやるものが多く、かつぼれに来てくれません。せめて、三味線ぐらいは教えてあげたいのですが。」早乙女さんは、若い人たちが江戸の伝統芸を引き継いでくれることを期待しています。

「かつぼれ、かつぼれ、よいとさ、よいよい」

ねじり鉢巻き、市松柄の着物に赤い袴。お馴染みの衣装に着替えて、稽古が始まりました。

人間かつぼれ愛好会(代表 伏見ユ

ミ子さん、会員13人)を発足させ、20年以上も指導しているのが、早乙女昌代さん(74歳)です。

今日は、出演する民謡発表会が迫っているので稽古にも熱が入ります。

早乙女さんが打つ拍子木のような「木頭」の音と掛け声に合わせて、伊勢音頭・深川、奴さんと、得意の芸のおさらいが進んでいきます。その間にも、「横を向き過ぎだよ。正面構える、大きい輪、小さい輪。四方払い、右左。」

と、早乙女さんの声が響きます。かつぼれを始めたきつかけを早乙女さんに伺いました。

「パートのカルチャール教室でかつぼれの講座を見つけた、4歳の孫に習わせよう」と行ってみました。しかし、子どもには無理と言われたので、まず自分が習うことにしました。覚えた芸を興味の

ある人に教える場を作って、かつぼれをもっと広めたい。そして当初の希望だった『子どもかつぼれ』を実現



■食生活改善推進員 金井カミエさん(東金子)

健康は食生活から・・・

にんじんやピーマンなどの色とりどりの食材を前に、これから調理実習が始まるうとしています。



▲料理開始!

今日のメニューはにんじんおにぎり、変わりバリエーション、それにコロコロサラダです。ここ、金子公民館の調理室で

は、朝から人間市食生活改善推進員協議会の金子・東金子地区定例会が開かれ、皆、リーダーの話に聞き入っています。

人間市食生活改善推進員協議会は市内に8支部を有し、地域に根差した活動を行っています。食生活改善推進員(愛称ヘルスマイト)として、会の創設から長い間、生活の改善や会の運営に貢献されている金井カミエさん(85歳)。

ヘルスマイトとしての当初の活動目的は、栄養バランスを中心とした食生活改善の普及でした。現在は、生活習慣病やメタボリックシンドロームの予防、骨粗鬆症予防などの啓発にも力を入れているそうです。

養成講座を受講し、晴れてヘルスマイトの資格を得た人たちは、管理栄養士等からアドバイスを受け、献立を考えたり、これを元に料理の練習をしたりします。そして各地区公民館で行う、すこやか料理教室(平成25年度開催回数56回、参加者延べ737人)で実践するのだそうです。

季節やテーマによって変わる献立は、健康に配慮し、塩分少なめ、彩り良く、バランスのとれたものになって

います。毎回の活動が楽しみという金井さんは、ヘルスマイトになってから風邪を引いたことがないそうです。また、長年の功績が評価され、平成25年度には、「栄養関係功労者厚生労働大臣表彰」を受賞されました。これからもますます健康ではつとごと活躍されることでしょう。



▲ヘルスマイトの必需品

料理をしている時、庭で花に水をやる時などに、自然に歌が出て来ることがありませんか。

歌を歌いながら、楽しく運動を続けている人たちがいます。健康うた体操(会長 大平 尹久子さん、会員15人)の活動が、軽快な青い山脈「メロデー」で始まります。

「若く明るい歌声に 雪崩は消える花も咲く」。腹式呼吸で大きい声を出す、身体の血流がよくなり、緊張もほぐれます。

続いて、「茶摘」を歌いながら、昔からある手遊びをします。向かい合って椅子に座り、「せつせつせ、夏も近づく八十八夜」と始め、段々速くなり、「超速、新幹線」と全速力になります。途中でやめる人が1人もいないのはお見事です。

他にも「里の秋」「かあさんのうた」などの歌があり、どの歌にも歌詞に合った振りがついています。

「健康うた体操を指導しているのは、千葉うめ子さんです。千葉さんは60歳以上の人を対象にこの体操を関東地区で展開している団体の指導員の資格を持っており、7年ほど前に、知り合いに呼びかけて、公民館で教室を始めました。

歌いながら楽しく運動しましょう

■健康うた体操 (西武)



この会の会員で、昭和桁生まれの小平さんと築地さんに、この体操の楽しさと効果について聞いてみました。「皆歌うのが大好きな仲間なので、ストレッチ解消には最高です。5年以上も続けているうちに、つまづいたり転んだりしなくなりました。」

千葉さんは特に正しい歩き方を強調します。「かかとから着地、背筋を伸ばし、歩幅は大きく、リズムを付けて早足で」。

全身を動かすように工夫されているので、楽しく続けられるという印象でした。男性の参加も大歓迎だそうです。



▲千葉さん



▼「幸せなら態度で示そうよ!」

▲「茶摘」せつせつせ



■ミュージックベルアンサンブルリベルタ代表 高見由美子さん
「すばらしい音色に癒されて」

扇町屋公民館の一角から、素敵な音楽が流れて来ます。

思わず足を止めて、耳を傾けると、

心安らぐベルの音色・・・

そうです。今日は「ミュージックベル

アンサンブルリベルタ」の練習の日で

す。

毎月、第三・四月曜日を楽しみにし

ている彼女たちは、現在女性8人で

活動しています。

ミュージックベルは一人が違う

音を受け持ち、楽譜を見ながら自分

の番になるとベルを振り上げ、余韻

を残すように鳴らし、1つの曲を演

奏します。一人で3つのベルを受け持

つこともあるそうですが、その難しき

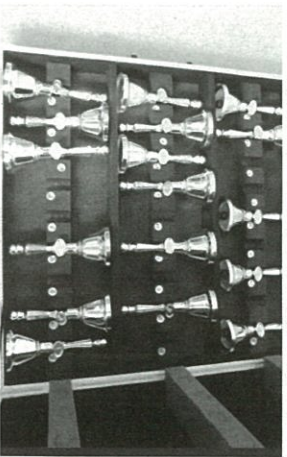
もまた、楽しみの一つだそうです。



▲教室の様子



▲ベルを振り上げて鳴らします



▲さまざまな音階のベル

今から10年前、同じアンソンのメンバー数人でミュージックベルを体験

してみたのが、サークル発足のきっかけです。

明るく、楽しい古内奈津子先生の

指導のもとで、誰かがうっかり間違

えても、お互い自然にカバーしていま

す。このチームワークの良さはこのグ

ループだからこそ。先生の指導にも一

段と熱が入ります。

このミュージックベルの響く不思議な

空間にいると、とても気持ちがあ

らなぐのだそうです。

高見さんは「これからもう3と曲目

を増やして、あらゆる場で活躍して

みたい」と抱負を語ってくれました。

「これから、秋の文化祭に出す掛時計の文字盤を作ります。当番の人は

粘土の袋を持って来てください。」

指導者の鈴木由利子さん(66歳)の

指示で、子どもたちが準備を始めまし

た。

陶芸クラブ「風の子会」(小学2年

と小学1年の6人)は、毎月2回、土

曜日の午前中に活動しています。

今日の作業について、鈴木さんに説

明していただきました。

「古信楽と特赤という粘土を使い

ます。粘りがあって乾きにくく、子ど

もにも扱いやすい土です。菊の花の形

を作るようによく練り、その後、四角

に固めて同じ厚さに切り、『たら』を

作ります。これで文字盤の原形ができ

ます。」

「風の子会」の誕生には、こんなエピソード

があります。

鈴木さんが参加していた公民館の

陶芸教室に、「自分もやりたい」と言

う子どもがお母さんについて来まし

た。しかし、大人と一緒にやるのは無理

とのことでした。

何とかこの子の希望をかなえてあ

げようと、陶芸教室の先生が尽力し

た結果、鈴木さんが指導を引き受け



■陶芸クラブ「風の子会」 鈴木由利子さん(新光)
自分で作り上げる喜び

「お姉ちゃんがやっていて面白そう

です。だから、私も入ったの。妹もやって

いるよ。お姉ちゃんが高校の陶芸クラ

ブで、今も続けているよ。」4年生の桐

本葉々花ちゃんが得意そうに話して

くれました。

鈴木さんの出身地は、益子焼の産

地に近かったので、高校生の頃から窯

元や陶器市をよく訪ねていました。美

術品のような磁器よりも、落ち着い

た色合いの陶器が好きだと言います。

子どもたちの作業を見てると、陶

芸はかなりの力仕事で、ぐらや切り糸

を使う時は集中力が必要です。

土に親しみ、物作りを楽しんでいる

子どもたちの成長を、鈴木さんは温

かい目で見守っています。



▲たたらを作ります



▲時計ができました

荷造り用の紙テープを編み上げて見事な作品が生まれます。

です。また、デザインサーピスでもお年寄りたちに講師をしているそうで

■ペーパーテープ作家 中出ミツ枝さん(上藤沢) 荷造り用の紙テープが見事な作品に



小学生の頃から手芸に興味があった中出ミツ枝さん(67歳)は、高校を卒業後、さまざまな手芸の勉強を続けてきました。そして、およそ17年前、荷造り用のテープを編み上げる「ペーパーテープアート」を思いつきました。

「最初は細い紙ひもを13本並べて一本にした太幅の紙ひもしかありませんでした。そこで、私はその紙ひもを裂いて細いひもにし、編むことを思いつきました。当時は生成色しかありませんでした。今ではさまざまな色の紙ひもが売られているので、作るのが楽しいです。」と話す中出さん。いろいろとアイデアが浮かんでくると、徹夜しても編み上げると言います。展示会などで見事な作品を見て「私も作りたい!」と中出さんのもとを訪れる人もいます。今は自宅や仏子駅前の教室に15人以上が集まり、ペーパーテープアートを楽しんで



▲根気のいる手仕事

▼教室の様子



▲作品の数々

でいます。また、デザインサーピスでもお年寄りたちに講師をしているそうで、使用する材料がともやわらかいので、形を整えながら編むのが難しく、ちよつとでも気を抜くと形が崩れてしまいます。また、二スを何度も塗って仕上げなければなりません。大きな作品は出来上がるまでに一カ月もかかることがあるそうです。だからこそ、出来上がった作品に生徒さんたちが喜ぶ姿を見ると、教えた中出さんもうれしくなると言います。バッグ、帽子、かごや皿など、中出さんの作品は、自宅いっばいに飾られ、数えきれないほどです。仏具屋さんからの依頼で、仏具のおりんを乗せる台を作ったこともあります。アイデアがいっばいの中出さん。これからもいろいろな作品を作りたいと意欲を燃やしています。

生 活 学 ぶ 事

第20回いるま生涯学習フェスティバル

～学び、出会い、つながって20年～

皆さんのおかげで「20年目」を迎えた生涯学習フェスティバル。学ぶことは生きること。今年もたくさんの方に会えます。

- ◇日時：平成26年12月7日(日) 午前9時45分～午後3時45分
- ◇場所：入間市産業文化センター・児童センター 他
- ◇主催：入間市・入間市教育委員会・(公財)入間市振興公社 入間市生涯学習をすすめる市民の会
- ◇主管：第20回いるま生涯学習フェスティバル実行委員会



▲昨年のオーブニングの様子

◎ 編集後記

●信号のない横断歩道は、少なくとも1-16-1 止まってください。運転して、いる人の善意を期待して、止まってくれるまで我慢強く待ちます。(ST)

●車の窓からゴミやたばこの吸い殻を捨てる人。自転車で乗りながら携帯電話やスマートフォンを使う人。どうしてマナーやルールを守れないのだろうか。誰もが皆気づければこの社会はとて莫く持ち直して、良くなると思います。(HT)

●最近テレビ・ラジオで「したいと思います。」という言葉をよく耳にします。丁寧な言葉なので、うが、私には言い逃れの言葉にしか聞こえません。このう思うのは私だけでしょうか？(MK)

●人間、生かされていることに気付くと人生が変わります。ものは考え方がひとつ。目標を抱き、それに向かって行けば心が躍ります。幸せやいきがいは自分の心の持ちようではないでしょうか。(NT)



企画編集：「かがやく」編集委員会
発行：入間市教育委員会生涯学習課

お問い合わせ
連絡先 入間市教育委員会生涯学習課
TEL 04-2964-1111(内線4124) FAX 04-2964-4841



2100

編集委員 (五十音順)

杉田忠久

西垣寿夫

橋本敏子

森邦夫